



棚倉小学校学習公開研究会

<研究主題>

「なりたい自分になるために学び続ける児童の育成」
～肯定的・対話的な関わりで学びをつなぐ教育課程の実践を通して～



<日 程>

9:30 10:00	10:00 11:45	11:45 13:00	12:30 13:00	13:00 13:45	14:00 14:40	14:55 16:25	16:30
受付 ①	開会 研究概要説明 実践発表	昼 食	受付 ②	公開授業	準備 感想交流会	移動 シンポジウム 「社会に生きる基盤を育てる 小学校のキャリア教育」 藤田晃之先生 佐藤 学先生 本校校長 研修主任	閉 会

令和7年12月 5日(金)
福島県東白川郡棚倉町立棚倉小学校

＜ 日 程 ＞

◇ 開会行事 【10:00～10:15】 体育館

- 1 開会の言葉
- 2 棚倉町教育委員会教育長あいさつ
- 3 全国小学校キャリア教育研究協議会長あいさつ
- 4 校長あいさつ並びに講師紹介
- 5 閉会の言葉

◇ 棚倉小学校研究概要説明 【10:20～11:00】 体育館

◇ 実践発表 【11:00～11:40】 体育館

「特別支援教育とキャリア教育」

東京都町田市立小山小学校 関根 史朗 先生

◇ 昼 食

◇ 授業公開 【13:00～13:45】

学 級	教 科	単 元 名 ・ 題 材 名	授業場所 感想交流会場所	授業者	ページ
5年3組	国 語 科	伝記を読み, 自分の生き方について考えよう やなせたかしーアンパンマンの 勇気	5年3組	我妻冬梨	14
2年1組	学級活動	第3四半期をふり返り, 第4四半期の目標を決めよう	2年1組	矢吹浩子	16
6年2組	学級活動	第3四半期をふり返り, 第4四半期の目標を決めよう	会議室	菊池奏多	18
3年1組	総合的な 学習の時間	たなぐら大発見 ～ちいきの食べ物～	3年1組	戸井田瞳	20

◇ 感想交流会 【14:00～14:40】 各教室

◇ シンポジウム 【14:55～16:25】 体育館

「 社会に生きる基盤を育てる小学校のキャリア教育 」

～子どもたちのキャリア発達のために私たちができること～

藤田 晃之 先生 筑波大学教授

佐藤 学 先生 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

本校校長

研修主任

◇ 閉 会 【16:25～16:30】

令和7年度 研究計画

1 卒業時に目指したい姿から設定した研究主題と副主題

「なりたい自分になるために学び続ける児童の育成」
～肯定的・対話的な関わりで学びをつなぐ教育課程の実践を通して～

2 研究のあゆみ

60年近く積み重ねてきた国語科、算数科を中心にした学習指導法の研究を糧にして、令和元年度からキャリア教育を軸にした研究をスタートさせた。学習指導要領の趣旨を踏まえて、児童の社会的・職業的自立に必要な資質・能力を育成するために、よさやできていることに目を向けることを信念として、特別活動を要としたキャリア教育を推進し、なりたい自分になるために学び続ける児童の育成を積み重ねている。

私たちは、「子どものよさに目を向ける」を信念とし、キャリア教育の視点を生かした授業づくり、学級づくりに取り組んでいる。研究に取り組んで2年目の令和2年度に顕著に確認できたことは、児童の学校生活への満足感や学習意欲、自己マネジメント力、自己肯定感の向上である。令和3、4年度は、学びの価値を実感する児童の姿が増え、学力を伸ばすことができた。令和5、6年度は、「肯定的・対話的な関わり」をより意識した学級づくり、教科の見方・考え方を意識した授業づくりに取り組んできた。学校生活への満足感や学びの意義の実感、学力の向上を図ることができた。

3 研究の見通し

(1) 主題について

① 「なりたい自分」について

児童が学びの価値を見出しながら学び続けるためには、目標とする自分の姿を具体的に思い描くことが必要である。なぜなら、目標とする自分の姿に近づくために努力した過程や結果で得た学びが、次の学びへの原動力につながるからである。そこで、「なりたい自分」を、思い描いた目標とする自分の姿と捉えた。なりたい自分の設定と実現においては、教師や児童同士等の肯定的・対話的な関わりが重要な役割を果たす。加えて、目標とする自分の姿は、授業一単位時間や1日の生活等短期的なものから、四半期、学年等中長期的なものを中心に、中学校以降の進路や将来の夢にまで至ることとする。

② 「学び続ける」について

中央教育審議会答申では、教科等を学ぶ本質的な意義の明確化、学習指導要領では、学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることによる主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の重要性を挙げている。これらの趣旨は、キャリア教育との密接な関連を示すものであり、学び続けるためには、「P自己を知り目標を決める」「D個人、協働で実践する」「C振り

返る」「A次の目標を決める」のPDCAサイクルの確立により、学ぶ価値を見出す指導の工夫が求められていると捉えた。そこで「学び続ける」とは、自己を知り、設定したなりたい自分の姿に近づくために個人や協働で実践し、その過程や結果で得た学びを振り返り、次のなりたい自分へと、学びを連続させていこうとする態度とした。

③ 「肯定的・対話的な関わり」について

学習指導要領の特別活動において、ガイダンスとカウンセリングの機能の充実が示されており、キャリア教育の手引きにおいても「発達過程にある一人一人の子どもたちが、個人差や特徴を生かして、学校生活における様々な体験を前向きに受け止め、日々の生活で遭遇する課題や問題を積極的・建設的に解決していくことを通して、問題対処の力や態度を発達させ、自立的に生きていけるように支援する」等、キャリア・カウンセリングについて定義づけられている。加えて、キャリア・カウンセリングは、一人一人との対話を通したキャリア教育を意味するものであり、教室や廊下等、日常の教育活動が生起するあらゆる場所で行えるとしている。

これらの趣旨を踏まえて、本校では「肯定的・対話的な関わり」を、児童一人一人の現状の把握を土台として、児童の思考や解決までのプロセスを受け止め、価値付けたり、意味付けたりすることを通して、児童自らが思考のよさ、その学習や活動のよさに気付き、次の成長につなげることができるように関わることを考える。

④ 「学びをつなぐ」について

児童の成長、キャリア形成においては、教科や領域が分けられている教育活動の中であっても、学期や学年、校種が変わるという時間的な節目があっても、児童の学びを積み上げていくという連続性が重要である。そのため、各教科、各領域、日常生活での学びを断片的にとらえるのではなく、横につなげてとらえるとともに、日々の授業を含めその学習や活動を区切るのではなく、次時へ、次の学年へ、次の校種へと縦につなげていくことを大事にしたい。学びをつなげることで、学びが深まり、実感のある学びとなつて、資質・能力が育成されるものであると考え、児童の学びを横や縦につなげることを「学びをつなぐ」とした。つなげるためには、学習指導要領に示されているように、何を学び、何ができるようになったかという振り返りの重視と、児童の学びの姿の見取りが欠かせない。日々の教育活動における振り返りこそが、学びをつなぐために大切なことを意識する。

(2) 研究仮説

「価値付ける、つなぐ、語らせる」を用いた肯定的・対話的な関わりを基盤とし、キャリア教育の視点を生かした指導の工夫を図れば、焦点化した資質・能力が育まれ、なりたい自分になるために学び続ける児童を育成することができるであろう。

(3) 研究内容・方法

① 児童の実態を踏まえた資質・能力の焦点化とカリキュラム・マネジメント

○ルーブリック表の活用による系統的な目標設定と指導

○キャリア教育年間指導計画をもとにした見通しと振り返りの充実

資料1・2・3・4

② 自己マネジメント力の育成

○キャリア・パスポートの活用

資料5

○学びの習慣作り（スケジュールプランナー，長期休業中 など）

○スタイル別学習や課題別学習等，自分で決める学びの設定

資料6

③ キャリア教育の視点を生かす授業づくり

○縦(時間，系統性等)と横(教科，領域，日常生活等)の学びのつながりの意識化

○教科の見方・考え方を意識した教師の働きかけ「価値付ける，つなぐ，語らせる」

○振り返りと見取りを重視した学びの価値付け，意味付け

資料7

④ 肯定的・対話的な関わりによる心理的安全性のある集団づくり

○Q-U，町キャリア教育意識調査結果，学テ児童質問調査を活用

○学年集会とハッピー&ハッピータイム（構成的グループエンカウンター（SGE））を関係づけた取組

資料8

⑤ 幼小中連携を通して学びをつなぐ

○授業参観や交流の意図的・計画的な設定

○ルーブリック表の活用

○自分発見シート（小学校卒業時に中学校へ引き継ぐ）

(4) 検証方法

教育活動全体をととした子どもの学びの姿から教育課程の有効性を検証

キャリア・パスポート ルーブリック 授業研究

町キャリア教育意識調査 Q-U 全国学力・学習状況調査 ふくしま学力調査等

令和7年度 棚倉小学校 育成したい資質・能力 ルーブリック表

レベル		レベル0	レベル1	レベル2	レベル3 (卒業までに育てたい姿)	レベル4
資質・能力 要素	自己理解・自己管理能力	自己理解 自分の強みが 分らない	自分の強み(よさ)を 見つける	自分の強みと弱み(課題) を見つめる	自分の強みを生かしなが ら弱みをカバーする(補う) 方法を見つめる	自分の強みを活用し 弱みとの向き合い方を 見つける
	自己理解・自己管理能力	自己効力感 自分にはできないと 思っている	自分の やればできることを 見つける	自分が失敗から立ち直る 方法を見つめる	自分が前向きになれる 考え方を見つめる	自分が前向きに取り組める 方法を見つめる
人間関係形成・社会形成能力	言葉と心のかかわり	コミュニケーション能力 相手に合わせた言葉遣 いと態度で関わる	友達や身近な大人に あいさつする	友達や身近な大人に 自分の考えや気持ちを持 ちを話す	場に応じた 言葉遣いと態度で 関わる	様々な人と状況に応じた コミュニケーションがとれる
	他者理解	協力できない	友達や身近な大人の話 を理解しながら聴く	自分と他者の考えの 共通点や相違点を見 つけながら聴く	他者の考えのよさを 取り入れながら取り組む	他者の考えを尊重しながら 協力して取り組む
課題対応能力	探究心	できるようにしたいことが 分らない	できるようにしたいことを 疑問に思ったことを 友達や身近な大人と 解決する	できるようにしたいことを 疑問に思ったことを 人、物、事を利用して 解決する	できるようにしたいことを 疑問に思ったことを これまでの学びをつなげて 解決する	できるようにしたいことや 疑問に思ったことを よりよい方法で解決する
	挑戦意欲	努力しない	まずはやってみる	決めたことに 粘り強く取り組む	取り組みの過程を 振り返りながら 粘り強く行う	取り組みを修正しながら 最後までやり遂げる
キャリアプランニング能力	自立心	自分のことができない	自分のことを一人で行う	学級や学年のために 自分ができていることを行う	学校や地域のために 自分の役割を果たす	ウエルビーイングのために 自分の役割を果たす
	計画実行力	学習の 計画が立てられない	順序に沿って 学びを進める	ゴールから逆算する 考え方で 学びの計画を立てる	PDCAサイクルを意識して 学びを進める	自分に合う学び方で 学びを進める
見通す						

四半期ごとに各学年が設定した資質・能力の一覧

資料3

子どもの実態をよく見取り、ルーブリック表から育てたい資質・能力を設定している。

第1四半期							
学 年	つくし・つばさ	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
第1四半期 育てたい資質・能力	自己理解・ 自己管理能力	人間関係形成・ 社会形成能力	人間関係形成・ 社会形成能力	人間関係形成・ 社会形成能力	人間関係形成・ 社会形成能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・自己管理 能力
目指す姿	自分のやればできる ことを見つけること ができる	友だちや身近な大人 の話を理解しながら 聴くことができる	友だちやみちかなお となにあいさつをす る	友だちや身近な大人 の話を理解しながら 聴く	友達や身近な大人に 自分の考えや気持ちを 話す	他者の考えのよさを 取り入れながら取り 組むことができる	自分の強みを生かし ながら弱みをカバー する（補う）方法を 見つける
学年テーマ	～みんなでパワー アップ～ 見つけよう！できる ことをひとつずつ！	ききかためいじんへ の いっぱい！	めざせ！ あいさつ名人！ あい手にあわせたい ことばで	大発見！友だちの いいところ！	伝えよう！ 自分の思いを 自分の言葉で！	自分から 言葉と心で伝えよう Try & Go！	強みを生かせ、 弱みを伸ばせ！ Step & Go！

第2四半期							
学 年	つくし・つばさ	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
第2四半期 育てたい資質・能力	人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	自己理解・ 自己管理能力	自己理解・ 自己管理能力	自己理解・ 自己管理能力	自己理解・ 自己管理能力	人間関係形成・ 社会形成能力
目指す姿	友だちや身近な大人に 自分の考えや 気持ちを話す	自分の強み（よさ） を見つめる	自分のよさを 見つめる	自分の強みと弱み （課題）を見つめる	自分が失敗から立ち あがる方法を見つめる	自分が前向きになれる 考え方を見つめる	他者の考えのよさを取り 入れながら取り組む
学年 テーマ	～みんなで自分を パワーアップ～ 話そう！自分の考え や気持ちを！	じぶんはっけん への いっぱい！	めざせ！ はっけん名人！ じぶんの よいところ	大発見！ 自分の いいところ！	やってみよう！ 失敗のもとを 次に生かして！	自分から失敗をおそ れずに前へ突き進め Try&Go！	考えを聞き、話し、 さらなる高みへ！ Step & Go！

第3四半期							
学 年	つくし・つばさ	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
第3四半期 育てたい資質・能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力	課題対応能力
目指す姿	できるようにしたいこ とを友だちや先生、お家 の人とそうざんして、で きるようになる	みんなのために自分 ができることを行う	できるようにしたいこ とや「なぜだろう」と 思ったこと、友だちや先 生、おうちの人と考えた ことをもとに問いかけつ づける	決めたことに 粘り強く取り組む	できるようにしたいこ とやもっと知りたいこと を、人、物、事を活用し て解決する	取り組みの過程を 振り返りながら 粘り強く行う	取り組みの過程を 振り返りながら 粘り強く行う
学年 テーマ	～みんなでパワーアップ～ かんがえよう！ できるようにするために！	みんなのために じぶんから みだすいっぱい！	めざせ！ なぜだろう名人！ 学びをつないで	チャレンジ！ ねばり強く 最後まで！	解決しよう！！ 自分のまわりのものを 生かして	振り返って やり直げよう Try & Go！	ふり返って実行！ ねばり最後まで！ Step & Go！

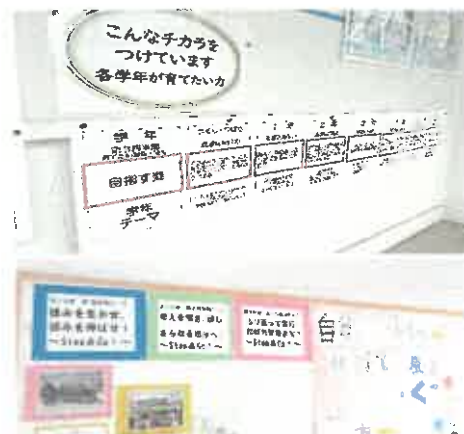
※ 第4四半期は、このあと設定していく

ほめポイント4つの化 よさをたくさん見取って称賛するために

見える化

＜方法＞ 各学年が焦点化した資質・能力の表を校長室、廊下、職員室、各教室等に掲示。

＜よさ＞ 誰でもいつでも、「この力を高めているんだ。」と分かり、子どものよさを見取り称賛することにつながる。



共有化

＜方法＞ 各学年が焦点化した資質・能力を学校通信、学年通信、懇談会等で発信。

＜よさ＞ 家庭や地域でも「この力を高めているんだ。」と分かり、ほめポイントを見取り称賛することにつながる。



意識化

＜方法＞ キャリア教育関連表の作成と学年廊下等への掲示。
「なりたい自分」作文を全校生に発表する場を意図的に設定。

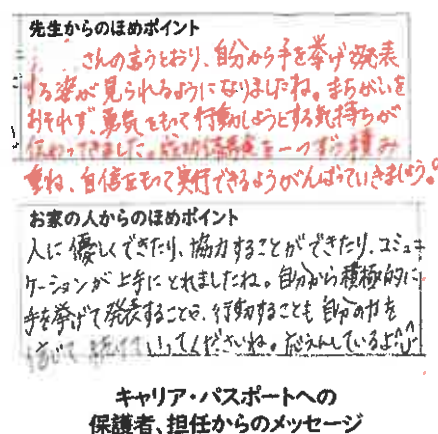
＜よさ＞ 教師も子どもも、高めている資質・能力が意識でき、互いのよさを認め合ったり、学校生活への意欲が高まったりすることにつながる。



強化

＜方法＞ キャリア・パスポートの活用。学習計画表の活用。
短学活や学年集会の活用。子どもの成長を促す意図をもった称賛。

＜よさ＞ 教師も子どもも、高めている資質・能力が意識でき、自分のよさの自覚や、学校生活への意欲の向上につながる。



資料5

資料 6

以上の資料については、掲載を省略します

全ての教育活動で大切にしている「肯定的・対話的な関わり」

○心理的安全性を高める「価値付ける、つなぐ、語らせる」……学級集団づくり

○教科の見方・考え方を意識した「価値付ける、つなぐ、語らせる」……授業づくり

資料 7

全ての教育活動で大切にしている「肯定的・対話的な関わり」

価値付ける

【学級活動】

学年で育てたい資質・能力「ほめポイント」が発揮された姿を評価・称賛し、成長の自覚を促します。

【各教科】

児童の考え（ノート記述、つぶやき等）の中にある各教科の見方・考え方を見出し、評価・称賛し、思考のよさの自覚を促します。

（子どもの言動を復唱）
+ ○○できて、
すてきだと思ったよ。

○○の力が
発揮されてるね。

○○だったのに
がんばったんだね。

ここまでは、
できてるね。

○○の考え方を
使えるって
気付いたね。

全ての教育活動で大切にしている「肯定的・対話的な関わり」

つなぐ

【学級活動】

価値付けた個々のエピソードを、対話的に展開するようつなぎ合わせて、自己のよさや成長、資質・能力の高まりの実感を促します。

【各教科】

今の学びを、前学年までの学び、将来学習する内容、他教科、児童のキャリア形成等とつなぐ。学び合いでは共通点、相違点を明らかにして自他の考えをつなぎ、学びの意義、価値の実感を促します。

どんな気持ち。
どうなったの。

どうしたの。
何があったの。

○○さんのこと、
教えて。

何年生の学びを
つなげたの。

学んだことが
○○に使えるね。

全ての教育活動で大切にしている「肯定的・対話的な関わり」

語らせる

【学級活動】

自己のよさや成長、次のなりたい自分やそのための方法、集団にとっても価値があること等について語らせ、心理的安全性を高めます。

【各教科】

思考の言語化を図り、思考を整理するとともに、その思考のよさや意味の自覚を促し、学びを深めます。

どうしてできたの。
どんな力がついたの。

どんなことに
挑戦したの。

次はどんなことを
がんばりたいの。
どうしたいの。

どうしてそう考えたの。
例えば・・・
だったら・・・。

この考えのよさは
どんなところかな。

令和7年度 ハッピー&ハッピータイム(全10回)年間計画

1 ねらい、キャリア教育との関連

- ・多様な他者とよりよい関係を築いていくために必要なスキルを育てるとともに、そのスキルを安心して発揮することができる集団を醸成する一助とする。

2 留意点

- ・別冊「棚倉小学校ハッピー&ハッピータイム活動案」を見ながら、取り組む。
- ・名前のとおり、体験を通して、自分も相手もハッピーになるようなマインドやスキルを身に付けることができるようにする。
- ・活動に参加できない児童には、役割や見学等を提示して、自分で選んで参加できるよう配慮する。
- ・活動後に振り返りの時間を確保し、子どもたちが感じたことや気づいたことを全体で共有し、日常生活にいかせるよう促す。
- ・これまでに体験した活動でも、繰り返し取り組み、感じ方の変化に気付くことができるようにする。

月	日	曜日	テーマ ※学年集会との関連	活動案(別紙)	ページ
4	16	水	はじめまして 心の絆づくり(SGE) ※4月振り返りは学年集会で実施	・「積み木自己紹介」 または「私の名前言ってリレー」 ・「はいどうぞ」	1、4、2
5	21	水	所属感 心の絆づくり(SGE)	・「あいさつリレー」 ・「拍手リレー」	1、25
6	11	水	他者理解 心の絆づくり(SGE) ※6月振り返りは学年集会で実施	・「しつもんじゃんけん」 ・「肯定的な聴き方」	7、6
7	9	水	よりよい関わり 心の絆づくり(SGE) ※7月振り返りは学年集会で実施	・「私もまぜて いいよ一緒にやろう」 (いじめ防止)	8
9	3	水	仲間意識 心の絆づくり(SGE) ※9月振り返りは学年集会で実施	・「登場ジャジャーン」	4
10	1	水	よりよい関わり 心の絆づくり(SGE) ※10月振り返りは学年集会で実施	・「たまごのきもち」 (いじめ防止)	13
11	19	水	励まし合い 心の絆づくり(SGE)	・「ハッピー励ましトークング」	9
12	3	水	非言語 一体感 心の絆づくり(SGE) ※12月振り返りは学年集会で実施	・「バースデーチェーン」	23
1	14	水	安心感 励まし合い 心の絆づくり(SGE)	・「パッチンゲーム」	26
2	18	水	所属感 心の絆づくり(SGE)	・「宝物探し」	2

第5学年3組 国語科学習指導案

日 時：12月5日（金）5校時

場 所：5年3組教室

指導者：

- 1 単元名 伝記を読み、自分の生き方について考えよう
やなせたかしーアンパンマンの勇氣

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること、役に立つことに気付いている。	① 「読むこと」において、登場人物の相互関係や信条などについて、描写を基にして捉えている。 ② 「読むこと」において、文を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	① 粘り強く文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを交流しようとしている。

3 単元について

(1) 単元計画（総時間6時間）

時	学習活動	評価規準（評価方法） ○は重点		
		知識・技能	思考・判断 表現力	主体的に学習に 取り組む態度
1	○ 伝記を読むことへの関心を高める。 ○ 全文を通読して感想や考えをもつとともに、単元の学習に見通しをもつ。		・思① (発言・ノート)	・態① (行動観察・ノート)
2	○ 「たかし」の考え方のもとになった出来事や行動や言葉を確かめる。		・思① (発言・ノート)	
3	○ 「たかし」の行動や言葉、考え方に着目して、人物像をまとめる。	・知① (発言・ノート)	○思② (発言・ノート)	
4 本時	○ 「たかし」の行動や言葉、考え方から、共感したことや「こうありたい」と思ったことをまとめ、友達と交流する。		○思② (発言・ノート)	
5	○ 「やなせたかし」で学習したことをつなげて偉人の生き方について自分の考えをまとめる。	○知① (発言・ノート)		
6	○ まとめた文章を読み合い、考えを広げる。	・知① (発言・ノート)	・思② (発言・ノート)	

(2) 本単元での学びと将来のつながり

本単元では、偉人の生き方にふれ、自分の生き方や考え方と関連付けながら自分の考えをまとめ、友達と交流する活動を通して、これからの自分の人生をよりよくしていくための生き方について考えを広げたり深めたりすることを見通して指導する。

4 本時の指導 (4/6)

(1) 目標

「たかし」の行動や言葉、考え方から共感したことや「こうありたい」と思ったことについて考えをまとめ、友達と交流を通して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。

(2) 展開

学習活動	時間	○指導上の留意点 ◇個への対応 ※評価
1 本時の学習課題を確認する。	5分	○ 学習計画表とこれまでの学習内容を振り返り、共感したことや自分が「こうありたい」と思うことについて自分の考えをまとめることを伝え、本時への興味関心を高める。 ○ 前時までにまとめたノートやワークシートを用いて、たかしの行動や言葉、考え方を振り返り、解決への見通しを持つことができるようにする。
「たかし」の行動や言葉、考え方から自分の考えをまとめ、伝え合おう。		
2 「たかし」の行動や言葉、考え方から自分の考えをまとめ、伝え合う。	30	○ ノートやワークシートを手がかりに自分の考えをまとめている児童のノートに線を引きながら称賛することで、粘り強く取り組めるようにする。 ◇ 自分の考えをまとめることができない児童には、学習したノートやワークシートと一緒に振り返りながら、自分の考えを書くことができるように関わる。
(1) 自分の考えをまとめる。		
・ たかしが、マンガの才能がないかもしれないと自信をなくしても、あきらめずに書き続けたところに共感した。		
・ たかしが、戦争で経験した、飢える苦しさから、食べ物を分け与えることが本当の正義だと考えたところから、わたしも、誰かのために行動できる人でありたい。		
(2) ペアで考えを伝え合う。		
(3) 全体で伝え合う。		○ 肯定的な対話を通して、児童の考えをつないだり、問い返したりして板書にまとめ、考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。
・ あきらめずにやりきりたい。		
・ 思いやりをもって行動したい。		
・ 困っている人に声をかけて一緒に解決できる人でありたい。		※ 友達との交流を通して、考えを広げたり、深めたりしている。 [思・判・表] (発言・ノート)
3 本時の振り返りを行う。	10	○ 友達と考えを交流することで、自分の考えが広がり深まったりしたことを称賛し、今後の学習や生活に生かしていけるようにする。

5 本単元とキャリア教育の資質・能力との関連

(1) 第3四半期(10月～12月)で育てたい資質・能力

取り組みの過程を振り返りながら粘り強く行うことができる (課題対応能力)

(2) 資質・能力を育てるための各教科、各領域等の指導

第3四半期では、「取り組みの過程を振り返りながら粘り強く行うことができる」を育成するために、学年テーマを「振り返りながら粘り強く挑戦 Try & Go!」と設定し、音楽会や持久走記録会、日常の授業において自分の振り返りを生かして、失敗を恐れずに粘り強く挑戦したり、あきらめないでやり遂げたりする姿を見取り、称賛している。

(3) 第3四半期に育てたい資質・能力につながる児童の姿「ほめポイント」

- 自分の考えを粘り強くまとめたり、友達に伝えようとしていたりしている姿

第2学年1組 学級活動(3)学習指導案

日 時：12月5日(金)5校時 場 所：2年1組教室 指導者：

- 1 題材名 「だい3四半きをふりかえり，だい4四半きのめあてをきめよう」
第4四半期に育てたい資質・能力「順序に沿って学びを進める」
(キャリアプランニング能力)

2 学習計画（振り返りと目標設定に関する年間指導計画）

月	内 容	学活(3)	学年集会	朝の会など
4	第1四半期に目指す姿の話合い			●
	第1四半期の目標を決めよう	●		
	4月の振り返りと今後につなぐために		●	
5	5月の振り返りと今後につなぐために			●
6	6月の振り返りと第2四半期に目指す姿の話合い		●	
	第1四半期を振り返り，第2四半期の目標を決めよう	●		
7	7月の振り返りと夏休みにつなぐために		●	
8	8月の振り返りと今後につなぐために	●		
9 10	9月・前期の振り返りと第3四半期に目指す姿の話合い		●	
	第2四半期を振り返り，第3四半期の目標を決めよう	●		
	10月の振り返りと今後につなぐために		●	
11	11月の振り返りと今後につなぐために			●
12	12月の振り返りと第4四半期に目指す姿の話合い		●	
	第3四半期を振り返り，第4四半期の目標を決めよう	本時		
1	1月の振り返りと今後につなぐために			●
2	2月の振り返りと今後につなぐために			●
3	3月・後期の振り返りと今後につなぐために		●	
	第4四半期の振り返りと1年間のまとめ	●		

3 本時の指導（1／1）

（1）目標

目標達成に向けて努力してきたことを振り返ることを通して、なりたい自分に向かって第4四半期にがんばりたいことを決め、学校生活への意欲や希望をもつことができる。

（2）展開

学習活動	時間	○指導上の留意点 ◇個への対応 ※評価
1 学年集会を振り返り、学習課題を確認する。 だい4四半きにがんばりたいことをきめよう。	10分	○ 学年集会の様子を写真や動画で振り返ったり、キャリア・パスポートを読み返したりすることを通して、本時の学習意欲を高めることができるようにする。
2 課題を解決する。 （1）第4四半期に目指す姿を確認し、3ヶ月の見通しをもつ。 （2）第4四半期にがんばりたいことを考えキャリア・パスポートに書く。 ①なりたい自分 ・けいかくをたてられる自分 ・自分で考えて学しゅうできる自分 ・2年生のまとめができる自分 ②そのためにがんばること ・かん字テストをがんばる。 ・読み上げ計算を毎日やる。 ・自主学習をする。 （3）ペアや全体で共有する。	25	○ 今後の予定を確認したり、3年生からの応援メッセージを視聴したりすることを通して、なりたい自分についてのイメージをもつことができるようにする。 ○ がんばりたいことを記述している児童のキャリア・パスポートに波線や花丸を記しながら児童の思いに共感することで、粘り強く考えることができるようにする。 ◇ がんばりたいことを書くことに戸惑っている児童には、これまでのキャリア・パスポートを振り返ったり、本児のよさを伝えたりする等、肯定的・対話的に関わることで、考えることができるようにする。 ○ ペアや全体でがんばりたいことを交流し、友達と励まし合ったり共感しあったりすることによって自分の意思決定に自信をもち、これからの学校生活への意欲を高めることができるようにする。 ※ 学校生活への意欲や希望をもち、第4四半期にがんばりたいことを決めている。 (キャリア・パスポート、発表)
3 振り返りを行う。	10	○ 友達と関わりながら考え、よりよい自分を目指してさらにがんばろうとしている姿を称賛し、目標達成に向けての意欲を高めることができるようにする。

（3）本題材での学びと将来とのつながり

本題材で、第3四半期にできるようになりたいことや疑問に思ったことを友達や身近な大人と関わりながら解決してきた姿を振り返り、第4四半期に向けて、どんな力が必要で身に付いた力をどのように生かすかを考えさせていく。さらに、第4四半期の頑張りが3年生へとつながっていくことを意識させることで、今後の学校生活等においても自分の学びを次の目標設定につなげていくことができるよう見通して指導する。

3 本題材とキャリア教育の資質・能力との関連

（1）第3四半期（10月～12月）に育てたい資質・能力

できるようになりたいことや「なぜだろう」と思ったことを、友だちや先生おうちのひとと考えたことをもとにかいけつする。（課題対応能力）

（2）資質・能力を育てるための各教科、各領域等の指導

第3四半期では、「決めたことに粘り強く取り組むことができる」を育成するために、学年テーマを「めざせ！なぜだろう名人！学びをつないで♡」と設定し、算数科「かけざん」や生活科「もっとなかよしまちたんけん」、音楽会等においてできるようになりたいことや疑問に思ったことを友達や身近な大人と関わりながら解決しようとする姿を見取り称賛している。

（3）第3四半期に育てたい資質・能力につながる児童の姿「ほめポイント」

● がんばりたいことを友達や先生と関わりながら考えている姿

第6学年2組 学級活動(3)学習指導案

日 時：12月5日(金)5校時

場 所：会議室

指導者：

- 1 題材名 「第3四半期を振り返り，第4四半期の目標を決めよう」
第4四半期に育てたい資質・能力
「自分に合う学び方で学びを進める」（キャリアプランニング能力）

2 学習計画（振り返りと目標設定に関する年間指導計画）

月	内 容	学活(3)	学年集会	朝の会など
4	第1四半期の目指す姿の話合い			●
	第1四半期の目標を決めよう	●		
	4月の振り返りと今後につなぐために		●	
5	5月の振り返りと今後につなぐために			●
6	第1四半期を振り返り，第2四半期の目標を決めよう	●		
	6月の振り返りと第2四半期に目指す姿の話合い		●	
7	7月の振り返りと夏休みにつなぐために		●	
8	8月の振り返りと今後につなぐために	●		
9 10	第2四半期を振り返り，第3四半期の目標を決めよう	●		
	9月・前期の振り返りと第3四半期に目指す姿の話合い		●	
	10月の振り返りと今後につなぐために		●	
11	11月の振り返りと今後につなぐために			●
12	第3四半期を振り返り，第4四半期の目標を決めよう	本時		
	12月の振り返りと第4四半期に目指す姿の話合い		●	
1	1月の振り返りと今後につなぐために			●
2	2月の振り返りと今後につなぐために			●
3	3月・後期の振り返りと今後につなぐために		●	
	第4四半期の振り返りと1年間のまとめ	●		

3 本時の指導（1／1）

（1）目標

目標達成に向けて努力してきたことを振り返り、第4四半期における「目指す姿」を話し合うことで、一人一人が「なりたい自分」を決定し、学校生活への意欲や中学校生活への希望をもつことができる。

（2）展開

学習活動	時間	○指導上の留意点 ◇個への対応 ※評価
1 学習課題を確認する。 第3四半期を振り返り、第4四半期の目標を決めよう。	5分	○ 第3四半期の振り返りの様子を写真や動画で提示し個々のがんばりを語らせながら振り返ること で、本時の学習意欲を高めることができるように する。
2 課題を解決する。 (1) 第4四半期に目指す姿を確認し、3ヶ月の見通しをもつ。 (2) 第4四半期の「なりたい自分」を決める。 ロイロノートに書く。 ① なりたい自分 ・自分のPDCAを実行する自分 ・P（計画）の力を伸ばせる自分 ② そのための具体的な目標 （学習、生活、行事、その他） ・自主学习ではページ数を増やす。 ・今までやっていたことを続け、つけ加える工夫をする。 (3) ペアや全体で共有する。	30	○ 第4四半期ではどんな力が必要か、どんな姿を目指したいかを5年生の関連表と比較しながら話し合ったり、第3四半期までのキャリア・パスポートを見返したりすることを通して、なりたい自分についてのイメージをもつことができるようにする。 ○ なりたい自分や具体的な目標を記述している児童のフィッシュボーンをチェックしながら児童の思いに共感することで、粘り強く考えることができるようにする。 ◇ 目標を決めることに戸惑っている児童には、これまでのキャリア・パスポートを振り返ったり、本児のよさを伝えたりする等、励ましの声をかけ関わることで、考えることができるようにする。 ○ ペアや全体で自分の目標を交流することを通してこれからの学校生活の意欲を高めるとともに、中学校生活に向けて前向きな気持ちをもつことができるようにする。 ※ 学校生活への意欲や希望をもち、第4四半期にがんばりたいことを決めている。 （ロイロノート、発表）
3 振り返りを行う。	10	○ これまで成長した姿やよりよい自分を目指してさらにがんばろうとしている姿を称賛し、目標達成に向けての意欲を高めることができるようにする。

（3）本題材での学びと将来とのつながり

本題材で、第3四半期に取り組みの過程を振り返りながら粘り強く行う姿を振り返り、第4四半期に向けて、どんな力が必要で身に付いた力をどのように生かすかを考えることを通して、今後の学校生活や中学校生活の中でも自分の学びを次の目標設定につなげていくことができるよう見通して指導していく。

3 本題材とキャリア教育の資質・能力との関連

（1）第3四半期（10月～12月）に育てたい資質・能力

取り組みの過程を振り返りながら、粘り強く行う（課題対応能力）

（2）資質・能力を育てるための各教科、各領域等の指導

第3四半期では「取り組みの過程を振り返りながら、粘り強く行う力」を育成するために、学年テーマを「ふり返って実行！ねばれ最後まで！～Step&Go～」と設定している。授業でのペア学習や全体での話し合い、音楽会や持久走記録会などにおいて、行動の振り返りをするを通して、自分の決めた目標に向かって最後まであきらめずに挑戦しようとする姿を見取り称賛している。

（3）第3四半期に育てたい資質・能力につながる児童の姿「ほめポイント」

- ・ 振り返りを大切にし、目標達成を目指して粘り強く挑戦しようとする姿

第3学年1組 総合的な学習の時間指導案

日 時：12月5日（金）5校時

場 所：3年1組教室

指導者：

1 単元名 「たなぐら大発見～ちいきの食べ物～」

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 棚倉町には、町の食材を使った商品があることや、その食材を生産したり使ったりする人の様々な思いがあることを理解している。 ○ 見学学習に向けて質問内容を考えて、状況に応じた受け答えやメモの取り方等を身に付けて、インタビュー活動をしている。 ○ 棚倉町のよさについての理解は、町の食材について調べ、人と人のつながりについて探求的に学習してきたことの成果であると気付いている。	○ 給食センターや町探検、農家見学で問いを見出し、棚倉町の食材を使うよさや食に関わる人の思いを探る課題をつくり、解決に向けて見通しをもっている。 ○ 調べたことをもとに、棚倉町の食材を使うよさや町の人々の思いを関連付けて考え、自分たちの地域について考えたことをまとめ、表現している。	○ 棚倉町の食材に関心を持ち、自分の生活を見つめたり、他者の考えを認めたりしながら、協働して探求的な活動に取り組もうとしている。 ○ 棚倉町の食に関わる人のつながりに気付き、地域のよさを見つけ、自分も町の人々や行事と積極的に関わろうとしている。

3 単元について

(1) 単元計画（総時数56時間）

〈課題設定〉	棚倉町の食べ物について話し合う・・・3時間
	給食センター見学・・・3時間
	子どもたちの「気づき」からの課題設定・・・1時間
〈探求活動1〉	自分たちの生活と食との関連を見つける・・・3時間
	ブルーベリー農家・加工場見学・・・8時間
	中間発表・・・5時間
〈探求活動2〉	地域の大豆加工食品と関わる・・・7時間
〈探求活動3〉	棚倉町の食を探ろう・・・3時間
	地域の商店街へインタビュー・・・4時間
	インタビューのまとめ・・・5時間
	お店で働く人の思いをさぐる・・・2時間（1／2本時）
〈まとめと発表〉	棚倉町や食べ物、人の魅力を発信する・・・12時間

(2) 本単元での学びと将来とのつながり

本単元で棚倉町の食べ物への関心を高め、食についての農家や工場等の見学、商店街でのインタビュー活動を通して、棚倉町の魅力や食に関わる人々の思いに気付き、郷土愛を深めるとともに、自分たちの地域について考えることができるようになることを見通して指導する。

4 本時の指導（１／２）

（１）目標

これまでの学びをもとに、棚倉町の食やそれに関わる人の共通点について、友達と話し合うことを通して、町の人々のつながりに気づき、地域について自分の思いを深めることができる。

（２）展開

学習活動	時間	○指導上の留意点 ◇個への対応 ※評価
1 これまでの学習の振り返りをする。	2分	○ 掲示物でこれまでの学習を振り返ったり、食に関わる人の思いを共有したりすることで、本時の学習への関心を高めることができるようにする。
2 学習課題を確認する。 それぞれの店を比べて、分かることは何かな。	3	○ それぞれの店についてのまとめを振り返り、本時の課題解決の見通しをもつことができるようにする。
3 課題を解決する。 （１） 共通点についてグループで話し合う。 ・食材を使う理由 ・お客さんや町に対する思い	30	○ 自分の考えを付箋を貼りながら整理して共通点を見つけたり、進んで発言したりしている姿を称賛し、肯定的に声をかけることで、粘り強く取り組むことができるようにする。 ◇ 困っている児童には、出された付箋を見比べてグルーピングできないか考えるように促すことで、話し合いに参加できるようにする。
（２） 全体で共有する。 ・共通点とそこから見えてくること（人と人とのつながり）		○ 棚倉町の食やそれに関わる人の思いなどを結び付けて考えることで、町への自分の思いを深めることができるようにする。
（３） 食に関わる人からのビデオメッセージを視聴する。		
4 本時の振り返りを行う。 （１） 本時の学習で分かったことや感じたことをワークシートに記入し発表する。	10	○ 友達とねばり強く話し合うことで学びが広がり町についての思いが深まったことを称賛するとともに、本時の学びが今後の生活にも生かされることを伝える。 ※ 調べたことと関連付けながら、地域についての自分の思いを深めている。【思・判・表】 (ワークシート、発表)

5 本単元とキャリア教育の資質・能力との関連

（１）第３四半期（１０月～１２月）に育てたい資質・能力

決めたことに粘り強く取り組む（課題対応能力）

（２）資質・能力を育てるための各教科、各領域等の指導

第３四半期では、「決めたことに粘り強く取り組む」を育成するために、学年テーマを「チャレンジ！ねばり強く！さいごまで！」と設定し、日常生活を基盤として各教科や総合的な学習の時間、音楽会等において、目標の達成や課題の解決に向けて、一人一人が粘り強く取り組む姿を見取り、称賛している。

（３）第３四半期に育てたい資質・能力につながる児童の姿「ほめポイント」

- ・ 学習したことを結び付けて、友達とねばり強く話し合っている姿